

上場1年銘柄に注目

テクノロジーの力で 飲食業界に貢献

シンクロ・フード 藤代真一社長に聞く



店舗物件情報のほか、厨房備品の販売、食材仕入れ先の選定支援、求人募集の管理などのサービスを提供する「飲食店・COM」の運営を主力とするシンクロ・フード（3963・東マ）。上場1年を迎える9月29日には、東証1部に市場変更する。これまでの歩みを振り返るとともに今後の展望について、代表取締役兼執行役員社長の藤代真一氏にインタビューした。

上場からこれまでを振り返ってください。

「会社の知名度や信頼度の向上、優秀な人材の確保など、上場で期待していた効果が表れている。また、営業面でも1部上場などの大手企業から提案を頂く機会も多くなった」

御社の強みや特徴についてお聞かせください。

「当社は飲食店のライフサイクル全般を抑えているが、入り口となる出口と店、出口となる退店の部分は創業時から手掛けていることもあり、特に強い。」

昨今、飲食業界の事業環境は厳しさを増しており、出店・退店のサイクルが加速していると感じている。引き続き認知度を高め、今後もしっかりアプローチをしていきたいところ」

「また、飲食店における人手不足が一層深刻化している。求人情報に特化した『求人@飲食店・COM』など、人材に絡んだ開発は積極的に取り組んでいる。日本の飲食業界は特に生産性を上げていかなければいけない分野。当社はここにテクノロジーを用いて、業界の課題解決にもっと貢献していきたいと思っている」

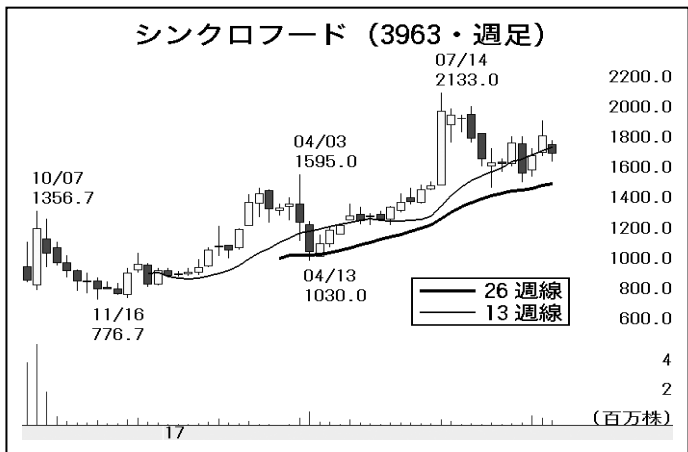
現在、注力している取り組みについて教えてください。

「買手売り手ともに、かなり件数が集まっている。昨年12月の立ち上げから既に数件の成約実績が出ており、手応えを感じている。ほかのM&A事業会社と比べ、当社は1億円未満の案件の仲介に注力。飲食業界でこうした小規模M&Aの場合は、意外とまだない。実績を積み上げ、当社がこのマーケットをつくり上げていく」

「もうひとつは飲食店に特化したリサーチサービス。かねて、食材や飲料メーカーなど飲食店向けのサービス事業者からの引き合いが多かった。今後も注力していききたい分野。『飲食店・COM』の12万人超のユーザーにアンケートを実施し、マーケットのリサーチデータとして提供している」

全体の事業戦略、中期で見た会社の将来像についてお聞かせください。

「当社は飲食業界を支えるメディアプラットフォームとして、食の世界をつなぐ、企業理念に掲げ事業展開を進めている。ほかの媒体に比べ、低価格でサービスを提供している点もユーザー拡大につながっているのでは。飲食業界での経営支援でいえば、当社はまだまだできていない領域がたくさんある。今後は、他企業との提携も視野に、『飲食店・COM』の価値をさらに高めていきたい」



「海外展開についても考えている。基本的には東南アジアが対象だが、その中でもマーケットが飽和状態に達したところに可能性を感じている。日本で展開するパッケージをそのまま持つていくというよりは、まずはニーズを見極めながら部分的にサービスを提供していくイメージ。これまで培ってきた出店・退店ビジネスのノウハウを存分に生かせると思う」

企業名	シンクロ・フード
事業概要	「飲食店・COM」を中心とし、飲食店出店・開業者および飲食店運営者、飲食店各事業者とのつながり、プラットフォームの運営
上場日	2016/9/29
初値	2970円